Nomura Research Institute Group

NEWS RELEASE

2025 年 9 月 4 日

株式会社野村総合研究所

野村総合研究所、AI による「多視点分析システム」を開発

～AI のペルソナと性格を自由に設定し、データからの洞察抽出を支援～

株式会社野村総合研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長：柳澤花芽、以下「NRI」）は、利用者が設定した役割や性格に基づき、AI が多様な視点からデータを解説する「データ分析における AI を活用した多視点分析システム」（以下「本システム」、特許出願中）を開発しました。今後、企業のニーズに合わせ、各種システムに組み込む形での提供を予定しています。本システムは、企業内に蓄積されたデータを分析する際に、画一的な AI の応答ではなく、経営者やアナリストといった異なる立場からの洞察を提供し、特定の視点からの意見を求める利用者に対して、より適切な示唆やアドバイスを行う点が特長です。これにより、データ活用の高度化と迅速な意思決定を支援します。

■ 「誰の視点からの意見か」が不明確な AI 分析の課題を解決

近年、多くの企業でデータ活用が進み、AI による分析支援も一般的になりつつあります。しかし、従来の AI による分析コメントは、「誰の視点からの意見か」が不明確なため、利用者が自身の立場や目的に照らして解釈しにくいという課題がありました。例えば、同じ売上データでも、経営層が求める中長期的な示唆と、現場担当者が必要とする短期的な対策でも、求める回答は異なります。 NRI は、この AI からの応答における「視点の不明確さ」という課題を解決するため、AI に「役割（ペルソナ）」と「性格」を持たせ、利用者が必要とする視点からの分析コメントを生成する本システムを開発しました。これにより、利用者は優秀なアドバイザーと対話しているかのように、自身が求める視点から深い洞察を得ることが可能になります。

■ 役割と性格のカスタマイズ、対話による深掘り分析を独自技術で実現

本システムは、NRI の独自技術（特許出願中）により、以下の 3 つの特長的な機能を実現しています。

1. 役割（ペルソナ）の選択機能

利用者は「経営層」「経営アナリスト」「ステークホルダー[1]」といった役割を選択するだけで、AI が

その立場になりきってデータを分析します。これは、各役割の思考様式を模倣するプロンプト技術[2]と、それぞれの役割に応じた補足情報データベースを組み合わせることで実現しており、通常の生成AIのプロンプト（指示文）による指示と比較して、より一貫した回答を得ることが可能になります。この補足情報には、公開情報だけでなく、企業の社内文書や議事録などを取り込むことも可能です。

2. 性格のチューニング機能

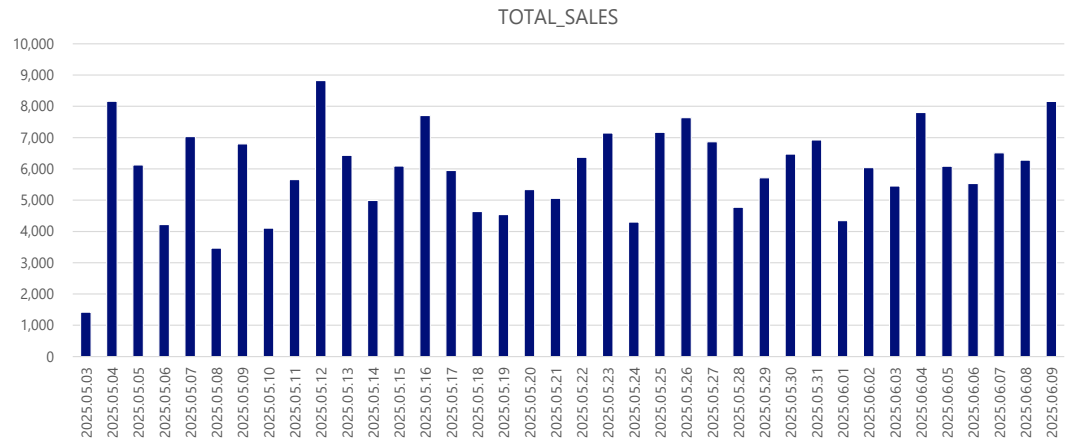
各役割が持つ性格について、例えばペルソナのポジティブさとネガティブさの比率などを、利用者が自由に調整できます。「より慎重なアナリスト」や「より楽観的な経営者」など、組織の文化や個人の思考スタイルに合わせた柔軟なカスタマイズが可能です。

3. 自然言語による対話型の深掘り分析

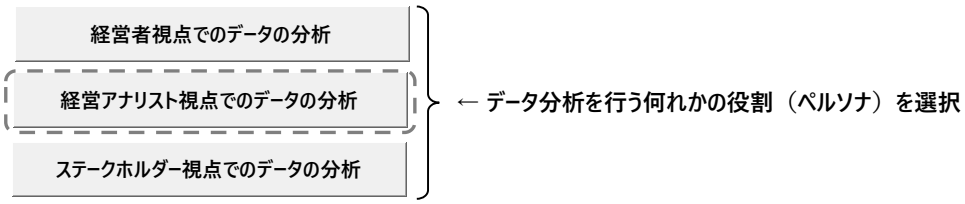
AIの解説に対して、利用者が「この数値が変動した背景を詳しく教えて」「関連するデータをグラフで示して」といったように自然言語で問いかけると、AIが追加のグラフを自動で生成します。これにより、分析のサイクルを高速化し、利用者は思考を中断することなくデータの深掘りができます。

図．本システムを使用した売上データ分析例

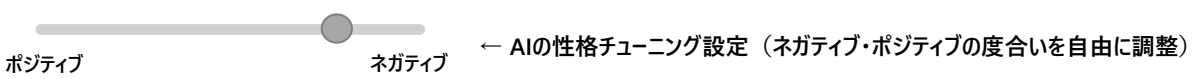
◆ 分析対象のデータ例（既存の情報分析システム等で描かれたECサイトの「日別売上」グラフ）



機能１： 役割（ペルソナ）の選択



機能２： 性格のチューニング機能



◆ 分析結果

※生成結果は参考掲載です：生成される結果は元データやRAG情報に大きく依存します

ポジティブの度合いを高くした場合の分析結果(抜粋)	ネガティブの度合いを高くした場合の分析結果(抜粋)
5月12日に売り上げの最高額を記録しました。これは当社の堅実な経営と顧客基盤が強固であることを示しています。 一時的な下落は、隣接する区域の大型商業施設のオープンによるものと考えられますが、当社の売上高はすぐに回復し、安定した成長を続けています。	売上高は、先月より減少しており、危険な状況です。 当該企業が属する業界全体が低調な傾向になるため、売上高の減少は業界全体の影響を受けている可能性がありますが、同様の傾向を示した企業は翌年赤字転落しているため、注意が必要です。

⇒さらに分析結果に対して自然言語を用いた深掘り分析が可能（機能３）

本システムは、分析ダッシュボード型の独立したアプリケーションとして提供できるほか、既存の情報分析システムにモジュール[3]として追加導入できるよう設計されています。

NRI は今後も、AI をはじめとする先端技術の研究開発と社会実装を通じて、データに基づいた業務プロセスの高度化と企業価値向上に貢献していきます。

---

[1] ステークホルダーは、分析対象の動向に直接影響を受ける当事者を指します。EC サイト売上分析の例では、出品継続・中止を判断する「出品者」の立場です。

[2] プロンプト技術は、 AI に期待する応答を的確に引き出すための最適な指示文（プロンプト）を設計・活用する技術です。

[3] モジュールとは、システム全体を入れ替えることなく、部品のように簡単に追加できる機能のまとまりを示します。

【ニュースリリースに関するお問い合わせ】

株式会社野村総合研究所　コーポレートコミュニケーション部　弓野、梅澤

TEL：03-5877-7100　E-mail： kouhou@nri.co.jp

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社野村総合研究所　マルチクラウドインテグレーション事業本部

デジタルインテグレーション推進部　大塚

E-mail：digital-integration-department-ai@nri.co.jp